

未病改善へ共同研究

弘大 明治安田生命 広島大発ベンチャー



講座のプレートを掲げ記念撮影する関係者。右から
田原社長、鈴木会長、佐藤学長、若林医学研究科長

弘前大学大学院医学研究科、明治安田生命保険(本社東京)、広島大学発ベンチャーのミルテル(同広島県)の3者は7日、弘大で共同研究講座「未病科学研究講座」の設置開設式を行った。弘大が「若木健康増進プロジェクト」で得たビッグデータと、ミルテルが持つ健康長寿に関係が深い「テロメア」測定技術を組み合わせ、抽象的な概念である未病(病気になる前の状態)の改善に向け、未病の度合の数値化や未病教育ツールの開発を目指す。

(太田佳希)

数値化やツール開発

講座設置は来年1月1日付で期間は3年。明治安田生命の鈴木伸弥取締役会長代表執行役は「未病の定量化ができれば将来リスクが算出でき、リスクが低い人は保険料を安くできる」と説明。「高い人も(生活)行動が変わることで保険料を引き下げられると考えている」と述べた。

ミルテルの田原栄治社長は「弘大のビッグデータと照らし合わせることで、より具体的な生活習慣とテロメアとの関係が分かる。未病検査を受けた人に改善策を示すツールを完成させた」と話した。

テロメア

細胞の中にある染色体の端で、塩基配列を繰り返している部分。細胞が分裂するたびに短くなり、喫煙などの生活習慣によっても短縮する。老化やがんと密接に関係するとされる。テロメアの端には「Gテール」という二本鎖DNAがあり、酸化ストレスによって長くなった

路重之特任教授は「健康づくりの基本は人から人に伝えること。この共同研究に強い期待を持っている」と話した。

開設式にはほかに、弘大の佐藤敏学長、若林孝一医学研究科長らが出席した。企業が弘大に共同研究講座を開設するのは11例目。